

「松山の授業モデル」とICT活用（外国語活動・外国語科）

学習場面 (松山の授業モデル)	ICT活用例
<p>■ 学習課題の設定</p> <p style="background-color: #800000; color: white; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">習得・活用・探究</p>	<p style="background-color: yellow;">コミュニケーションの目的や、場面、状況（学習のめあて）を理解する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を設定する際には、その活動の目的や、場面、状況が、児童・生徒にとって明確であり、かつ、その活動に取り組む必然性があることが大切である。事前にネイティブ・スピーカーが、児童・生徒に情報や考えを求める動画を録画しておくことにより、言語活動の設定が可能である。例えば、「家族が来日する。父は〇〇が好きで、母は□□が好きだ。どこに行くとよいかみんなに教えてほしい。」といったビデオレターを作成すれば、児童・生徒は、自分たちの背景知識を生かし、ネイティブ・スピーカーのために伝える内容を考えることができる。また、理解に応じて繰り返し再生して聞かせることも可能である（A1、B1）。 ・ICTの活用の大きな利点である「リアルタイムに情報をやり取りできる」というポイントをより重点し、ビデオレターという手段をテレビ電話やテレビ会議システムの利用に置き換えると、より鮮度が高く、現実的な学習の場を児童に提供することができる（A1、C4）。  <p style="background-color: yellow;">新たに学習する言語材料を導入する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出の言語材料を導入する際、当該言語材料の構造や規則性を説明することから始めるのではなく、言語活動を通じた指導を行うためには、児童・生徒の背景知識を活用させ、新出の言語材料を含んだ文の意味を推測しやすい状況を作り出すことが大切である。そこで、新出の言語材料を含んだ英語を聞いたり、読んだりする活動を行う前に、ICTを活用して、内容と関連のある写真や短い動画などを提示してトピックに対する興味、関心を高めたり、当該トピックについて児童・生徒とやり取りをしたりすることにより、当該新出言語材料の意味や使い方を推測しやすくなる（A1）。
<p>■ 交流し考える学習</p> <p style="background-color: #008000; color: white; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">交流・表現・体験</p>	<p style="background-color: yellow;">学習のモデルを確認し、自分の発表に生かす場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」などの言語活動においては、教師がそのモデルを実際に示すことも可能だが、音声や動画でモデルを示すことにより、児童・生徒は、発音や表現を体感的に理解することができる（A1、B3）。 ・英語を「書くこと」においては、「語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現を書き写す」ことや、「自分のことや簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書く」こととなる。英語で書かれた例文をスクリーンや大型モニター、書き込み機能をもつ大型提示装置等に拡大、投影することで、児童はスペースを置き、語順を視覚的に意識することができる（A1、B3）。（小学校）

■ 交流し考える学習

交流・表現・体験

情報を収集し、自分の考えや気持ちなどを整理する場面

- ・「読んだことについて話す」「聞いたことについて書く」など、複数の領域を統合した言語活動に取り組ませる際に、ICTを活用して、読んだり聞いたりする内容を補足する情報を収集させることで、自分の考えや気持ちなどをもたせたり整理させたりすることができる (B2、B3)。
- ・整理した自分の考えや気持ちを表現するための準備の段階においてもICTの有効的な活用が可能である。例えば、自分が伝えたい内容を伝えるために必要な語彙等を調べるためのインターネット等の活用や、表現内容をよりわかりやすくする表やグラフ、絵や図の収集などである (B4)。

情報や考えなどを表現したり伝え合ったりする場面

- ・一人一台のタブレット端末を使用し、作成した資料を見せながら英語でやり取りをする (C1)。



- ・録画や録音された他の児童生徒の発表を視聴し、ロイロノート・スクールに発表についてのコメントを記入させる。交流画面で一覧にして示し、交流する (C2)。



- ・学習課題にある自分の考えなどをロイロノートに書き込んだり、録音させたりして、その筆記や音声を全体で共有する (C2)。



- ・表現する内容等によっては、インターネットを活用し、遠隔地や海外の学校などに向けて情報を発信し、意見を交流することもできる。テレビ会議システムなどを使って、リアルタイムに情報や意見をやり取りするという英語の使用体験ができれば、その後の学習意欲の喚起に大きく資する (C4)。



■ 学習の振り返り

内容×方法

客観的に振り返り、次の学習における目標設定をする場面

- ・児童・生徒が発表する様子を録音・録画し、児童・生徒自身はその様子を再生して確認することにより、自身の発話を客観的に振り返り、次の学習における見通しや目標設定をすることができる。また、教師にとっては、当該音声や動画を授業改善に使ったり、パフォーマンス評価に活用したりすることも可能である (B1、C1)。

